

- 問1 天皇家から分かれ、平高望を起点として平清盛へと続く系図に示されるような「平氏の出自」は、彼らが武士団として台頭する上でどのような役割を果たしましたか。その背景として最も適切なものを選んでください。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 天皇の血を引いていることを理由に、一切の軍事活動を禁じられ貴族文化に専念するきっかけとなった | 2. 高貴な身分を背景に、他の武士をまとめ上げたり朝廷の政治に関わったりする根拠となった | 3. 地方の豪族と同じ立場であることを強調し、農民たちの支持を広く集める要因となった | 4. 源氏の末裔であることを証明することで、武家の棟梁としての正当性を主張する材料となった |
|---|--|--|---|
- 問2 平清盛が推進した日宋貿易が、当時の日本社会に与えた経済的な影響に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 朝廷が貿易を独占したため、地方の武士が経済的に困窮し、平氏打倒の機運が高まった。 | 2. 中国から大量の宋銭（銅銭）が輸入され、国内の貨幣経済が広まるきっかけとなった。 | 3. 勘合符を用いることで、倭寇（海賊）による密貿易を厳しく制限し、幕府の財政を安定させた。 | 4. 日本から象牙や香料を輸出し、引き換えに鉄砲やキリスト教の布教を認める条約を結んだ。 |
|---|--|--|--|
- 問3 平安時代後期に行われた「院政」と呼ばれる政治の仕組みや背景について、正しい説明はどれですか。 (2025年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 天皇が退位して上皇となった後、独自の役所を設けて摂政や関白を介さずに政治を行う仕組み。 | 2. 藤原氏の娘を天皇のきさきとし、その子供を次の天皇に立てることで権力を独占する仕組み。 | 3. 仏教による国家の安定を目指し、全国に国分寺や国分尼寺を建立して人々の心を掌握する政治。 | 4. 地方の混乱を抑えるために有力な武士を国司として派遣し、土地の管理を直接行わせる制度。 |
|--|---|--|---|
- 問4 中尊寺金色堂の内部は、建物全体が金箔や螺鈿、漆などで豪華に装飾されています。このような大規模で贅を尽くした建築がこの時期の平泉で行われた理由として、当時の背景を最も適切に説明したものはどれですか。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 戦国大名が領国内を統治するために制定した「分国法」に基づき、農民からの徴税が組織化されていたため | 2. 奥州で産出される豊富な金や特産品の交易により、京都の貴族文化にも匹敵する強大な経済力を持っていたため | 3. 鎌倉幕府の執権が禅宗を深く信仰し、武士の質実剛健さを象徴する質素な様式の寺院を推奨したため | 4. 瀬戸内海を中心に活動する海賊の反乱を鎮圧し、海外貿易の利益を独占して莫大な富を蓄えたため |
|---|---|--|---|
- 問5 平安時代初期、遣唐使として唐へ渡って仏教を学び、帰国後に比叡山に延暦寺を建立して天台宗を広めた僧侶は誰ですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 空海 | 2. 鑑真 | 3. 最澄 | 4. 行基 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問6 飛鳥時代から奈良時代にかけて、日本は中国の制度を取り入れた中央集権的な国づくりを進めました。701年に制定され、刑罰に関する規定と政治の仕組みに関する規定をまとめた、律令国家の基礎となる本格的な法令は何ですか。 (2020年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|-----------|
| 1. 大宝律令 | 2. 養老律令 | 3. 五成敗式目 | 4. 十七条の憲法 |
|---------|---------|----------|-----------|
- 問7 10世紀から11世紀にかけての日本では、唐の文化を吸収しつつ、日本の風土や生活、感情に合わせた「国風文化」が発達しました。この時期に宮廷に仕えた女性たちが著した文学作品の説明として、最も適切なものを選択肢から選びなさい。 (2018年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 千利休が、茶室という限られた空間の中で精神的な交流を重んじる「わび茶」を大成させた記録 | 2. 清少納言が、宮廷生活での経験や自然の美しさを鋭い観察眼で書き留めた、随筆の『枕草子』 | 3. 本居宣長が、日本古来の精神を明らかにするために古代の神話を研究してまとめた『古事記伝』 | 4. 紫式部が、貴族の和歌を分類・整理して編纂した、日本最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』 |
|--|---|--|--|
- 問8 日本の歴史において、7世紀から12世紀頃までの飛鳥時代、奈良時代、平安時代を一括りにする時代区分を何と呼びますか。歴史の大きな流れを整理した分類に基づいて答えなさい。 (2017年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 古代 | 2. 近世 | 3. 中世 | 4. 近代 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問9 1086年から始まった院政の時期、上皇は自身の権力を支えるために、独自の軍事組織や政治基盤を整えました。これに関する当時の状況として正しい記述はどれか、次の中から選びなさい。 (2023年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|------------------------------------|---|
| 1. 「北面の武士」と呼ばれる独自の軍事力を組織し、自らの身辺警護や寺社の強訴を防がせた | 2. 「内閣」を組織し、国務大臣を選任することで近代的な議会政治の準備を進めた | 3. 「執権」という役職を新たに設け、北条氏に政治の実務を代行させた | 4. 「班田収授法」を厳格に実施し、公地公民の原則に基づく律令国家の再建を目指した |
|--|---|------------------------------------|---|
- 問10 桓武天皇が、それまでの都であった平城京から離れ、長岡京や平安京へと遷都を繰り返した政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 大陸との交易を活発にするため、瀬戸内海に面した大型の港を建設し都とするため | 2. 平城京において藤原氏の権力が弱まり、新しい有力貴族が自身の拠点に都を移そうとしたため | 3. 東北地方の蝦夷（えみし）を制圧するための軍事拠点として、より北方に位置する土地が必要だったため | 4. 平城京で強大になった仏教勢力の影響を断ち切り、天皇中心の政治を立て直すため |
|--|---|--|--|
- 問11 平安時代末期に成立した平氏政権の特色について、その背景や仕組みを説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 後白河上皇に仕える武士勢力の中で台頭し、武士として初めて太政大臣となった平清盛が、一門で官職を独占して政治の実権を握った。 | 2. 有力な戦国大名であった織田信長が、足利義昭を追放して室町幕府を滅ぼし、実力によって天下統一を進める新たな支配体制を築いた。 | 3. 後醍醐天皇による建武の新政に反旗を翻した足利尊氏が、京都に幕府を開き、守護の権限を強めることで全国を支配した。 | 4. 朝廷から征夷大將軍に任命された源頼朝が、鎌倉に幕府を開いて全国の武士を御家人として統制する仕組みを整えた。 |
|--|--|--|--|
- 問12 藤原道長が「この世をば わが世とぞ思う…」と詠んだ時期の家系図をたどると、道長の娘たちが一条天皇や後一条天皇といった歴代の天皇と婚姻関係を結び、その子供たちが次々と即位している様子が確認できます。この時期に藤原氏が独占した「摂政」と「関白」という役職の説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2024年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 摂政は地方の反乱を鎮圧するための臨時の職で、関白は朝廷の儀式を専門に司る職である | 2. 摂政は仏教の力で国を守るための最高位の僧職で、関白は武士を統率するための軍事的な職である | 3. 摂政は天皇が成人した後にその補佐を行う職で、関白は天皇が幼い時に政治を代行する職である | 4. 摂政は天皇が幼い時や女性である時に政治を代行する職で、関白は天皇が成人した後にその補佐を行う職である |
|---|---|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 高貴な身分を背景に、他の武士をまとめ上げたり朝廷の政治に関わったりする根拠となった	平安時代の社会では血統が極めて重視されました。平氏が単なる地方の武装集団に留まらず、広範な武士団を組織し、最終的に政権を握ることができたのは、彼らが「天皇の子孫」という貴族的な身分を併せ持っていたからです。この権威があったからこそ、各地の武士を配下に収めることができ、また朝廷内でも高い官職を得て政治の実権を握ることが可能になりました。
問2	答え 2 中国から大量の宋銭（銅銭）が輸入され、国内の貨幣経済が広まるきっかけとなった。	平清盛は日宋貿易を通じて宋（中国）から大量の銅銭（宋銭）を輸入し、これを国内に流通させることで、それまでの物々交換を中心とした経済から、貨幣を用いた経済への転換を促しました。これにより平氏一門は莫大な富を蓄え、政治的な地位を強固なものにしました。なお、勘合符を用いる貿易は室町時代の足利義満によるものであり、鉄砲やキリスト教が伝来したのは戦国時代のことです。
問3	答え 1 天皇が退位して上皇となった後、独自の役所を設けて摂政や関白を介さずに政治を行う仕組み。	院政は、藤原氏が摂政や関白として権力を独占する「摂関政治」に対抗し、天皇家が政治の主導権を取り戻すために行われました。上皇は「院庁」という独自の役所を置き、北面の武士を組織して警護にあたらせるなど、従来の官僚組織とは異なるルートで政治を動かしました。藤原氏の婚姻政策は摂関政治の特徴であり、国分寺の建立は奈良時代の聖武天皇による政策です。
問4	答え 2 奥州で産出される豊富な金や特産品の交易により、京都の貴族文化にも匹敵する強大な経済力を持っていたため	奥州藤原氏が拠点を置いた東北地方は、当時から良質な金の産地として中央（京都）にも知られていました。この金や、北方の特産品である馬、毛皮などの交易を通じて得た莫大な富が、金色堂のような豪華な寺院建立を可能にしました。また、前九年の役や後三年の役といった激しい戦乱が続いた後、亡くなった人々の魂を等しく弔い、仏教による平和を実現しようという強い願いが背景にあります。
問5	答え 3 最澄	唐での厳しい修行を終えて帰国した後、現在の滋賀県と京都府の境に位置する比叡山を拠点として、新しい仏教である天台宗を確立しました。この延暦寺は、当時の都であった平安京の北東（鬼門）に位置し、国家を守護する重要な役割を担いました。
問6	答え 1 大宝律令	唐の律令にならい、文武天皇の時期に制定されました。これにより、二官八省の官制や、全国を国・郡・里に分ける地方支配の仕組み、戸籍に基づき土地を分ける公地公民の原則が明確に規定されました。この法令の完成によって、日本における律令国家の形成が大きく前進しました。
問7	答え 2 清少納言が、宮廷生活での経験や自然の美しさを鋭い観察眼で書き留めた、随筆の『枕草子』	平安時代中期、かな文字の普及にともない、女性によるすぐれた文学作品が多く生まれました。清少納言による『枕草子』は、その代表的な随筆（エッセイ）です。選択肢にある『古今和歌集』は紀貫之らによって編纂されたものであり、本居宣長は江戸時代の国学者、千利休は安土桃山時代の茶人です。
問8	答え 1 古代	日本の歴史における時代区分では、天皇や貴族を中心とした政治が行われていた飛鳥時代から平安時代までを「古代」と呼びます。12世紀末に鎌倉幕府が成立し、政治の実権が貴族から武家へと移ることで、次の「中世」へと区分が変化します。この時代区分は、政治体制や支配層の変化を基準に考えられています。
問9	答え 1 「北面の武士」と呼ばれる独自の軍事力を組織し、自らの身辺警護や寺社の強訴を防がせた	院政を行う上皇は、自らの権力を支えるために「院の近臣」と呼ばれる側近や、「北面の武士」という警護組織を配置しました。この北面の武士には、次第に平氏や源氏といった有力な武士が登用されるようになり、院政期における武士の社会進出を促すきっかけの一つとなりました。
問10	答え 4 平城京で強大になった仏教勢力の影響を断ち切り、天皇中心の政治を立て直すため	奈良時代の平城京では、国家の保護を受けた東大寺などの仏教勢力が政治に深く関与するようになっていました。桓武天皇はこうした宗教勢力の干渉を避け、政治の刷新と天皇主導の中央集権体制を再構築することを目指して、新天地である平安京への遷都を断行しました。
問11	答え 1 後白河上皇に仕える武士勢力の中で台頭し、武士として初めて太政大臣となった平清盛が、一門で官職を独占して政治の実権を握った。	平氏政権は、上皇の執務を支える軍事力として成長した平清盛が、貴族社会の仕組みを利用して権力を手中に収めた点に特徴があります。清盛は武士として初めて太政大臣となり、一族で多くの知行国や官職を占めることで、伝統的な貴族政治の延長線上において武士による初の政権を樹立しました。
問12	答え 4 摂政は天皇が幼い時や女性である時に政治を代行する職で、関白は天皇が成人した後にその補佐を行う職である	摂政は、聖徳太子の時代から見られる役職ですが、平安時代には藤原氏が天皇を代行する職として固定化させました。関白は、天皇が成人した後も実質的な決定権を握り続けるために設けられた職です。道長は主に摂政として、頼通は長期間にわたり関白として、親子二代にわたって約50年もの間、朝廷の最高権力者として君臨しました。